

製品名: パラディンウサギポリクローナル抗体**カタログ番号:** APRab15718

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000
分子量	150kDa

抗原情報

遺伝子名	PALLD
別名	PALLD; KIAA0992; CGI-151; Palladin; SIH002; Sarcoma antigen NY-SAR-77
遺伝子 ID	23022.0
SwissProt ID	Q8WX93
免疫原	パラディン由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 450-530

背景

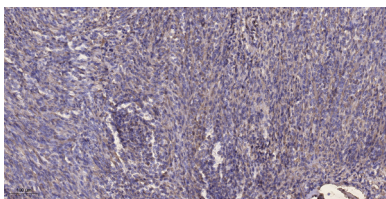
この遺伝子は、アクチン細胞骨格の形成に必要な細胞骨格タンパク質をコードしています。このタンパク質はアクチンを含む微小フィラメントの構成要素であり、細胞の形状、接着、収縮の制御に関与しています。この遺伝子の多型は、膵臓がん 1 型への感受性

および心筋梗塞のリスクと関連しています。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2009年10月]、注意：誤って myoneurin (文献2) として割り当てられました。、疾患：PALLD の遺伝的変異は、膵臓がん1型 (PNCA1) への感受性と関連しています[MIM:606856]。膵臓がんの発生初期に発現が増加する：がんのすぐ隣の正常に見える組織全体、前がん状態、および家族性および散発性のがんの両方において。、疾患：PALLD の遺伝的変異は心筋梗塞と関連している可能性があります。、機能：正常なアクチン細胞骨格の組織化に必要な細胞骨格タンパク質。さまざまな細胞タイプで、細胞の形態、運動性、細胞接着、および細胞-細胞外マトリックス相互作用を確立する役割を果たします。アクチンの重合と、既存のアクチンフィラメントの高次アレイへの組み立ての両方に影響を与える可能性のある足場分子として機能する可能性があります。単量体またはフィラメント状のアクチンに結合するタンパク質に結合します。ラメリポディアや膜ラッフルなどの活発なアクチンリモデリングが発生する部位に局在します。異なるアイソフォームには機能の違いがある可能性があります。樹状細胞の成熟に伴う形態学および細胞骨格的变化の制御に関与する。ACTN を特定の細胞内フォーカスに誘導することに関与する。、誘導：アイソフォーム3は新規発現し、アイソフォーム4は筋線維芽細胞の分化過程において TGFβ1 によって上方制御される。、その他：このタンパク質は、FA6、HPAF、IMIMPC2、SUIT2、および PATU2 といった散発性膵臓癌細胞株で過剰発現する。、PTM：主にセリンがリン酸化され、チロシンもリン酸化される (類似性による)。DNA 損傷時にリン酸化される (おそらく ATM または ATR による)。、類似性：ミオチリン/パラジンファミリーに属する。、類似性：5つの Ig 様 C2 型 (免疫グロブリン様) ドメインを含む。細胞内局在：ストレスファイバーおよびZディスクに局在する。細胞接合部、接着斑。細胞突出部、ラッフル。細胞突出部、ラメリポディウム。、サブユニット：EPS8、LASP1、VASP と相互作用する (類似性による)。ACTN、ARGBP2、LPP、PFN1、SPIN90、SRC、EZR と相互作用する。、組織特異性：筋組織および非筋組織の両方で検出される。前立腺、卵巣、結腸、腎臓で高い発現を示す。膵臓、骨格筋、肺、末梢血リンパ球 (タンパク質レベル) では検出されない。、

研究分野

タグと細胞マーカー、細胞内マーカー、細胞骨格、アクチン、シグナル伝達、細胞骨格/ECM、マイクロフィラメント、アクチンなど、アクチン架橋、アクチン結合タンパク質、アクチンアセンブリ

画像データ



パラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°Cで一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45分)。